

科目名	社会福祉		履修年次	2 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 看護に必要な社会保障制度と社会福祉サービスの理解を深める。</p> <p>目標: 1 社会保障制度のしくみと、社会福祉制度を理解できる。 2 社会福祉サービスと保健医療の連携を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単元	時間	内 容		方 法
1 社会保障制度のしくみと社会福祉分野のサービス	6	1 社会保障制度 (1) 医療保障制度 (2) 介護保障制度 (3) 所得保障制度 (4) 公的扶助制度 2 社会福祉 (1) 高齢者福祉 (2) 障害者福祉 (3) 児童家庭福祉		講義
2 社会福祉と保健・医療との連携	8	1 医療提供システムの変化と連携の課題 2 医療・看護・福祉の連携の実際		講義 GW
試験	1			試験
評価方法	筆記試験			
必須資料(テキスト)	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉 (医学書院)			
参考資料	・必要な授業資料がある場合は適宜印刷のうえ、配布する。			
履修上の留意事項	・本科目は、看護学概論・各看護学や多(他)職種連携、地域・在宅看護論等、さまざまな科目につながる内容であるため、予習・復習のうえ、積極的な学習姿勢で講義・GW に望むこと。 ・また、看護師としてのみでなく、一社会人としても理解をしておくことで役立つ内容を多く含む。 ・さらに、看護師国家試験の出題も頻出であるため、主体的・積極的な学習姿勢を望む。			

科目名	保健医療論		履修年次	2 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 今日の保健医療の動向と社会変化における新しい医療の展開上の課題を理解する。</p> <p>目標: 1 保健医療の変遷と社会の変化における医療技術の現状を理解できる。 2 臨床における倫理的問題を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単元	時間	内 容		方 法
1 医療と看護の原点	2	1 いのちについて考える 2 病の体験 3 癒しの行為と癒しの知 4 チーム医療とマネジメント		講義
2 医療の歩みと医療観の変遷	2	1 現代医学の起源 2 我が国の医療がたどってきた道 3 医療観のうつりかわりとこれからの医療観		講義
3 わたしたちの生活と健康	4	1 わが国の医療供給体制 2 少子高齢化社会と世代間のきずな 3 障害者のノーマライゼーションと社会的包摂 4 心の健康と精神医療		講義
4 現代医療の最前線と新たな課題	6	1 科学技術の進歩と現代医療 (1) がん診療 (2) 移植医療 (3) 人工臓器の開発 (4) 再生医療 (5) 画像診断装置の進歩 2 現代医療の新たな課題 (1) 医原病 (2) インフォームドコンセントと医療情報の開示 (3) 患者の安全 (4) 医療の管理と評価 (5) 情報化社会と医療		講義
試験	1			試験
評価方法	筆記試験			
必須資料(テキスト)	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度① 総合医療論 (医学書院)			
参考資料	・必要な授業資料がある場合は、適宜印刷のうえ、配布する。			
履修上の留意事項	・現代医療のあり方や課題等、倫理学につながる科目のため、積極的に考え、今後の医療のあり方を考察する。積極的な学習姿勢を望む。			

科目名	関係法規		履修年次	2 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法令を理解する。</p> <p>目標: 1 保健・医療・福祉に関する制度や法令の概要を理解できる。 2 保健・医療・福祉における看護師の法的責任と役割を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 法と厚生行政のしくみ	2	1 権利・義務という概念 2 法の世界と解釈 3 法の限界 4 厚生行政のしくみ		講義
2 医事関係法令	8	1 看護師関係法令 (1) 保健師助産師看護師法 (2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 2 関係職種に関する法令 (1) 医師法 (2) 薬剤師法 (3) 理学療法士法 (4) 介護福祉士法 3 医療関係法令 (1) 医療法 (2) 臓器の移植に関する法律 (3) 死産の届出に関する規程		講義
3 看護師の法的責任	4	1 民事上の責任 2 刑事上の責任 3 行政上の責任		講義 GW
試験	1			試験
評価方法	筆記試験			
必須資料(テキスト)	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 (医学書院)			
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。			
履修上の留意事項	<p>・予習のうえ、授業に臨むこと。</p> <p>・本科目は、看護学概論・各看護学や多(他)職種連携、地域・在宅看護論等、さまざまな科目につながるため、予習・復習のうえ、積極的な学習姿勢を望む。</p> <p>・また、看護師として働くうえでの法的根拠となる科目であり、理解が必須の内容も多い。看護師国家試験等の出題も頻出であるため、主体的に学習に臨むこと。</p> <p>・医療に関する法令は、この授業で学習するほかにも成人看護学(地域保健法)や母性看護学(労働基準法等)、その他各領域で学習する。それぞれ関心をもって主体的に学ぶことを望む。</p>			

科目名	公衆衛生学		履修年次	2 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 公衆衛生の考え方、生活者の健康増進に対応した法制度及び総合的な健康づくりを推進する方法を理解する。</p> <p>目標: 1 公衆衛生の目的、方法を理解できる。 2 集団の健康状態を把握する健康指標や調査データの疫学的な見方を理解できる。 3 健康生活に関連する生活環境因子や対策を理解できる。 4 保健活動と衛生行政の概要を理解できる。</p>				
授業計画				
単元	時間	内容		方法
1 公衆衛生の理念	2	1 公衆衛生の目的とその方法 2 健康の概念 3 プライマリヘルスケア 4 ヘルスプロモーション		講義
2 公衆衛生の技術	4	1 疫学的方法による健康の理解 2 健康に関連した指標 3 健康と生活環境被害 4 健康教育		講義
3 公衆衛生と地域保健	8	1 難病保健 2 感染症 3 学校保健 4 産業保健 5 災害保健		講義
試験	1			試験
評価方法	筆記試験			
必須資料(テキスト)	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 (医学書院) 厚生省の指標 国民衛生の動向 (財) 厚生統計協会) 公衆衛生がみえる (メディックメディア)			
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。			
履修上の留意事項	・予習のうえ、授業に臨むこと。 ・地域・在宅看護論につながる科目のため、予習・復習のうえ、積極的な学習姿勢を望む。 ・「公衆衛生と地域保健」のうち、下記についてはそれぞれの看護学領域で学習するので、関連性をもって学習することを望む。 母子保健 (母性看護学) 成人・老年保健 (成人・老年看護学) 精神保健 (精神看護学)			